# 福大病院ニュース No.113

Fukuoka University Hospital News

2020 秋号 AUTUMN

## 1 輸血医療について 輸血部の紹介

福岡大学病院では年間約 1,000 人の患者に 9,000 人のドナーから献血された血液が輸血されています。

輸血部は病院内で輸血される血液製剤を管理し、「安全で適正な」輸血が行われるように診療科を支援する部門です。当院では医師1名と臨床検査技師3名（技師長は臨床検査部と兼任）が所属しています。

なお輸血のために必要な検査については臨床検査部所属の技師が担当し、協力して 24 時間体制で対応しています。

### 輸血管理の主な業務は以下の通りです

1. 臨床科医師が輸血申し込みをした際に適正であるかを確認し、必要時に問い合わせをします。
2. 輸血については事故や副反応が起こりうるため、安全に実施する手順を定めており、臨床現場で守られているかをチェックして不十分な場合には指導をします。
3. 患者さんに輸血される際に取り違え事故が起きないよう、当院ではコンピュータシステムを利用した照合を行っており、輸血部では徹底されているかを常に確認しています。
4. 輸血副反応発生時には臨床現場からの連絡を受けて日本赤十字社に報告し、原因究明に務めています。
5. 病院内で輸血に関係する部署の代表者が参加する輸血療法委員会を2ヶ月に1回開催して、院内での血液製剤の使用状況を振り返り、また安全対策を全体で共有するようにしています。

その結果 2015 年に日本輸血・細胞治療学会の輸血機能評価認定（I&A）施設となり、輸血管理についての安全性が保証されました。

輸血用血液としては、献血を元にして日本赤十字社が供給している「同種血」以外に、手術の際に輸血を要する患者さんにおいて、前もってご自分の血液を採血して保管し手術時に輸血する「自己血」があります。輸血部外来では各診療科の依頼を受けて、自己血貯血を行っています。

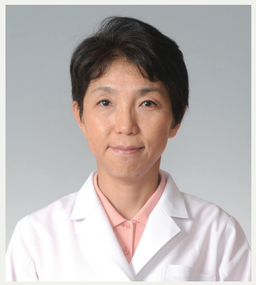
### 献血のお願い

2020 年現在新型コロナウイルス感染者拡大のため、企業において在宅勤務が推奨され、またイベント等が中止されていることにより、献血バスの受け入れ先が減って献血協力者が減少しています。しかしながら医療現場には輸血を必要とする患者さんが多くいらっしゃいます。そのため皆様には今後とも献血へのご協力をお願いいたします。街中の献血ルームでは密集状態を回避する対応をしていますので、予めお問い合わせの上、献血時間を予約してお出かけください。

### 福岡市内献血ルーム

| | |
|---|---|
| おっしょい福岡 | 博多バスターミナル8階 |
| キャナルシティ | ビジネスセンタービル1階 |
| ハッピークロス イムズ | イムズ8階 |

出典：厚生労働省



輸血部　部長
医師　熊川 みどり（くまがわ　みどり）

福岡大学病院　〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目 45 番 1 号
TEL（092）801-1011㈹　URL：https://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/

## 4 輸血医療について 輸血療法における看護師の役割

輸血は最も身近で頻繁に行われている臓器移植の一つと言われています。一定のリスクを伴うことから輸血療法の性質や考え方を理解した上で危険性と効果を勘案し、安全かつ適正な輸血を行わなければなりません。学会認定臨床輸血看護師は輸血療法に関する専門的な知識や技術を元に患者さんが安心して輸血を受けることができるようサポートしています。

### 学会認定臨床輸血看護師の活動

学会認定臨床輸血看護師の主な役割として、安全な輸血を行うための環境を整備することが挙げられます。輸血療法では多職種の医療チームが協働して患者さんに輸血を提供します。看護師は患者さんへの説明と同意、輸血のための採血、血液製剤オーダー、輸血部からの血液製剤払い出し、病棟での輸血準備、患者さんへの投与、投与後の副反応の観察など全ての場面に関わっています。特に不適合輸血の防止、輸血による副反応の早期発見など常に患者さんの一番近くにいて安全を守るという重要な使命があります。患者さんへ安心安全な輸血を提供する土台として、私たちは輸血療法について十分な知識や技術を持った看護師の育成を支援しています。新人看護師に対する基礎教育として、新人研修の中で輸血療法の基礎知識や実践教育を行っています。また継続教育として各部署に出向き輸血投与の実地指導や、病棟内での輸血に関する困りごとを解決したりしています。看護師のみではなく全職員を対象に、院内安全教育で輸血の取り扱いについての講義や演習も学会認定臨床輸血看護師が中心となり取り組んでいます。

私たちは輸血を多く取り扱う病棟や外来で活動しています。患者さんの中には、他人の血液を体の中に入れることや今後のことに対して不安を感じる方は少なくありません。安心して輸血療法を受けることができるよう輸血に関する情報を提供し、輸血後のフォローのためご希望の方には輸血手帳を準備しております。輸血に関することで不安なことや気がかりなことがあればいつでもご相談ください。

### 学会認定自己血輸血看護師の活動

自己血貯血とは手術で輸血を必要とする程度の出血が見込まれる場合に予め自身の血液を貯めておき手術時に使用する輸血方法です。

当院では主に整形外科、産婦人科、形成外科の患者さんが自己血貯血を選択されます。

初めての方は自己血貯血に対し不安が多いと思います。あらかじめパンフレットをお渡しし、自己血貯血の流れや留意点について詳しく説明を行っています。

自己血貯血は自己血輸血責任医師と学会認定自己血輸血看護師が担当し日本赤十字センターの献血に準じて行います。自己血貯血当日は、来院時に問診で体調のチェックを行い心配なことはないかなど身体面、精神面両方のサポートを行い安心して自己血貯血に臨めるよう支援しています。またリクライニングベッドやBGM などゆっくりとした落ち着いた環境を準備しています。

自己血輸血看護師は患者さんが和やかな環境の中で安全・安楽に自己血貯血が行えるようにお手伝いしています。

看護部
看護師　辻　雄大（つじ　ゆうだい）

## 2 医療情報部紹介
# 未来の医療と医療情報部がつくる未来

2020 年4月1日、コロナウイルスが猛威をふるうなか志村英生教授の後任として医療情報部の診療部長に着任いたしました。未知なウイルスとの遭遇は、ライフスタイルを変化させ、意識や思考にまでも影響がでています。医療に対しても様々な問題を投げかけ、新たな診療体制を構築する必要性が出てきました。

## 必要と適応がつくる未来

折しも 5G（第5世代移動通信システム）が登場し、医療への活用が目指されています。医師―患者間のオンライン診療は、ソーシャルディスタンスのみならず通院時間・費用の削減になります。福岡大学病院でもすでに一部の疾患を対象にオンライン診療が始まりました。医師―医師間の遠隔医療は、経験・知識・地域などの医療格差を是正し医療の質の向上に繋がり、スキルシェアにより医療提供の本質や病院の存在意義を変えてしまうかもしれません。

また、AI（人工知能）は病気の診断のみならず治療方針の決定にも活用が進み、一部の疾患ではすでに実用化されています。AI は囲碁や将棋のように医療分野でも人間の判断を凌駕してくるのは間違いなく、当直明けでパフォーマンスが低下することもありません。高い診断能力、最適な治療方針のみならず、見落としや勘違いも AI により防いでくれるようになるのではないでしょうか。

## 未来の根源

医療情報部は、これらすべての医療情報システムに携わり、未来の医療にとって大変重要な鍵となる部署で、職員は皆プライドをもって取り組んでいます。法律や倫理的問題、技術的問題があり、今すぐに大きな変革はありません。しかし、2021 年にマイナンバーを用いた顔認証システムによる医療保険のオンライン資格確認が始まります。また 2022 年にはオンライン処方が可能になり、病院は行政や薬局とオンラインでつながることになり、さらにもっと多くの様々なシステムとオンラインで繋がっていくことになると思います。そういった中で、われわれ医療情報部は医療情報システムの安全管理を第一の目標としつつ、患者さん・医療従事者の利便性や快適性の追求を視野に入れ、現状では限られた予算ではありますが、未来に繋がるシステム開発・データの利活用を目指したいと考えております。

医療情報部　部長
医師　吉田 陽一郎
よしだ　よういちろう

## 3 薬剤部紹介
# 外来がん薬物療法における薬剤師の新たな取り組み

薬剤部では、令和２年度より外来でがん薬物療法を受けられる患者さんに対する新たな取り組みを始めましたのでご紹介いたします。

## 新たな取り組みをスタートしました

近年がん薬物療法は特定のがん細胞を攻撃する薬剤（分子標的薬）や自己の免疫を調整する薬剤（免疫チェックポイント阻害薬）など多様な働きを有する新しい薬の登場により薬の効き方や副作用等が高度・複雑化しています。病院薬剤師は外来化学療法室で投与される抗がん薬（注射薬）を中心に、がん薬物療法における副作用の確認や減量・中止、検査項目の追加、他科への相談、当日の治療の可否など多岐にわたって業務を担っています。一方で内服する抗がん薬については、服薬状況や副作用の発現についてすぐに確認する事が難しく、課題とされてきました。

そこで、医療機関と保険薬局が、がん薬物療法についての情報共有を行い、より充実した指導を患者さんに提供できる体制を構築しました。

この取り組みにおいて、医療機関の病院薬剤師と保険薬局の薬局薬剤師がそれぞれの専門性を発揮して外来でがん薬物療法を受けられる患者さんに接し、知りえた情報を連携し共有することでこれまで以上に質の高い指導を提供することが可能です。

## 最後に

薬剤師はお薬の専門家として、患者さんのより安全で効果的な治療に参画しています。お薬についてわからないこと、聞きたいことがありましたら、薬剤師にいつでもお気軽にご相談ください。

薬剤部
薬剤師　五十嵐 保陽
いがらし　やすあき